

令和5年度 大阪国際中学校高等学校 学校評価 実施報告

大阪国際中学校高等学校

校長 松下 寛 伸

1. めざす学校像

「未来社会を担う、『志』と『人間力』をもった人材を教育・輩出する」との揺るぎない評価を確立した学校

- ・安定的に定員を満たす入学者を獲得し、財務上の経営安定と積極的な事業展開を行う基盤を確保
- ・校訓「人間をみがく」に沿い、「質の高い学びとバランスの取れた人間形成」を実践
- ・すべての生徒が在学中に自ら『志』を立て、社会での存在価値を見出す。生徒たちのその『志』の実現を応援することを最重要事項として推進
- ・生徒は学ぶ意味を理解し、お互いの価値観を認め合い、学び合う。そうした姿勢が学校文化として定着
- ・国際バカロレアの理念が学校全体に浸透し、「国際学園」の名にふさわしい学びの環境が確立
- ・学園創立100周年を目前にして、「基本戦略プラン」の展開は学校を特徴化するものとして機能、完成形となり、新たな第二ステージを計画・展望
- ・教職員も常に向上心を持ち、さらなる成長への努力を怠らない。闊達で活気あふれる組織風土を形成

2. 中期的目標

1. 「質の高い学びとバランスの取れた人間育成」の実践

- ・「基本戦略プラン」に沿った学校運営の実施。項目ごとの推進時間軸と具体策を策定し、年度別に計画に沿った運営を行う。
- ・4つの特色的な学び、「人間をみがく」「国際感覚をみがく」「創造力・表現力をみがく」「個を支える」の実践。これらを通じ、社会に貢献できる人材に共通した資質(社会人基礎力)を修得させる。
- ・各コースのカリキュラム編成、授業展開においては、新学習指導要領に準拠。知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成するとともに、社会の変化に対応できる資質と能力を高める。
- ・国際バカロレアの理念を学校全体に及ぼし、国際バカロレア機構が定める「IB Learner Profile」を本校の「目指す生徒像」に設定。生徒の『人間形成』教育の柱とする。
- ・時代の要請に応えるICT教育を展開するため、Chromebookを一人一台配備。また、施設設備面の充実のみならず、教員のスキルや指導力向上など、あらゆる方策を講じていく。
- ・校舎棟内に配置された約16,000冊の本を活かし、生徒たちの進路や価値観、人生観に影響を及ぼす多くの気づきを与えていきたい。
- ・生徒の「学び」と「人間形成」のための土台づくりとして、新入生には入学直後に本校独自のスタートプログラムを展開。学ぶ意味と姿勢を理解し、学校生活をスタートするにあたってのモチベーションを高める。
- ・入学時より、自らの「志」を立てることの大切さやそれをサポートする講演などの取り組みを展開。2年次に「志論文」を書き、自らの将来を設計し、発表し合う「立志式」を実施する。
- ・女子バレーボール部・男子硬式テニス部・女子ラクロス部・吹奏楽部をシンボリッククラブとして位置付け、強化を図っていく。

2. 進路指導

- ・生徒一人ひとりがその多彩な個性・志を実現すべく、希望する進学先・進路に進んでいるという姿を明示する。その結果が、世の中から評価される形の進路先・内容・実績となれば、出口戦略(進路)と入口戦略(募集)がマリーする好循環が生まれる。
- ・生徒が学ぶ意味を理解し、自ら立てた志の実現のため主体的に勉強に取り組めば、より確かな学力が身につく、進路先も多様となる。それがまた本校の魅力の一つとなる。
- ・国際バカロレアコースでは、所期の想定に沿い、海外大学も含めた幅広い進路先を実現していく。
- ・総合探究コース・幼児保育進学コースを中心に、大阪国際大学・短大との連携・協働を深め、学びの特色としての位置付けを高めるとともに、安定的な内部進学者数を確保する。

3. 生徒指導

- ・挨拶、時間厳守、校内美化を徹底するとともに、学校活動全般を通して円滑な人間関係の構築を学ばせる。
- ・高校1年生は、IBコースを除く全コースの生徒が、小笠原流礼法の授業を正課で受講。この授業を通じ、「他者を思いやる心」を身に付け、各々の人間力向上にもつなげていく。
- ・不登校など、配慮を必要とする生徒への対応のため、全校的な生徒相談体制を構築。各学年と保健室、生徒相談担当職員にスクールカウンセラーが適宜連携を取りながら、適時適切に対応していく。
- ・シンボリッククラブの設定など、クラブ活動もより活性化させ、生徒のクラブ活動加入率も向上させていきたい。

4. グローバル人材の育成

- ・国際バカロレアの理念が学校全体に浸透し、「国際学園」の名にふさわしい学びの環境が確立されている姿を目指す。
- ・グローバルコモンズを活用したネイティブ教員との交流や、豊富な洋書の蔵書を使った取り組みなどを活性化させる。
- ・イマージョン教育や英会話強化プログラムの実施、グローバル体験、英語スピーチコンテスト等により、GLOBAL MINDを醸成するとともに、英語コミュニケーション能力の向上を図る。
- ・海外修学旅行の実施や海外留学・研修プログラムの充実化により、異文化や多様性に触れる機会を作る。
- ・提携校からの交換留学生をはじめ、AFS留学生など、さまざまな機会を捉え、留学生の受け入れを行っていく。また、オンラインを通じた交流なども取り入れていく。

5. 人材開発

- ・教員の指導力強化と将来に向けた中核人材の育成に向け、体系的な研修制度・人材開発システムの構築を図る。
- ・新任教員を対象に、年度初めの導入研修を実施するとともに、ピアサポートプログラムにて先輩教員が新任教員の仕事面・メンタル面のサポートを行い、成長を支援する。
- ・「教員力」の強化に向け、新たに人材開発システムを構築し、各種研修、体験を提供する準備を行う。
- ・人材開発システムにて、中核・役職候補人材の強化を図り、次世代の大阪国際を担う人材を計画的に育成する仕組みをスタートさせる。
- ・「教育理念」や「目指す生徒像」に沿った業務活動・生徒育成を教員各個人の業務目標に織り込むことを必須化。本校が目指す姿を、教員が行動ベースで具現化していく。

6. 組織改革

- ・教務システムBLENDおよびグループウェアGaroonなどのシステムやICTを活用し、校務全般の効率化を図ることで、教職員が「生徒に振り向ける時間」を極大化し、ひいては教職員の働きがい向上につなげる。
- ・教職員一人ひとりが教育理念を理解し、能動的に、かつ皆で協働するマインドを醸成すべく、インナーブランディング活動を計画的に推進していく。
- ・教職員も常に向上心を持ち、さらなる成長への努力を怠らない。闊達で活気あふれる組織風土を形成する。

			<p>して、新たな取り組みが行われるようになり、その取り組みなども評価されており、学校の教育方針も保護者も含め理解されてきている。</p> <p>ただ、一方では学校の授業はわかりやすく、質問対応などにも評価が高いが、実際の学力向上感実感されておらず、個人の実情にあわせた結果を具体的な数値などで可視化する必要があるのかもしれない。</p> <p>ICTに関しては現高2(81.4%)、高1(76.0%)は全員1台購入しているのに対し、高3生は学校のCBを利用しているため、差が大きいついと考えられる。</p>
(2) 「進路指導」	(2) ア. 生徒1人1人に応じた進路指導を実践し、多様な進路を保障する イ. 「志」を立てる取り組みから定めた生徒の希望進路を実現させる	(2) ア. 大学の進路指導に関して適切なアドバイスがある イ. 国公立大学50名、 関関同立200名の合格を目指す	(2) ア. 肯定的評価 ・高 校 83.0%(高3 88.0% 昨年度 81.7%) 【◎】 ・高校保護者 77.2%(昨年度 76.0%) 【○】 ・教職員 81.7%(昨年度 89.7%) 【◎】 イ. 進学実績(R6. 3. 31現在) ・国公立大学 71名(昨年度 53名) 京都大 0名(昨年度 0名) 大阪大 5名(昨年度 6名) 神戸大 4名(昨年度 4名) ・関関同立 260名(昨年度 265名) 〈卒業生数 260名(昨年度 270名)〉 【◎】 ※ 幅広い学力層の生徒を受け入れており、進路実現に対するニーズにも変化が見られる。また、入学選抜の方法にも変化がみられ、学校としても早くから柔軟に対応することが求められるようになってきており、保護者に対しても早くからの情報公開が求められている。
(3) 「生徒指導」	(3) ア. 生徒指導や校内美化など、新しい見地をもって指導を行い、調和のとれた学校生活を目指す イ. 生徒理解の促進と安心な学校造りのための体制の構築をめざす ①精神的な疾患等による長期欠席者または不登校者に対するケアを実施し、 転・退学の防止に努める ②SNS利用に関するトラブルなど、いじめにつながる問題事象の発生防止に努める ウ. 文武両道により知徳体のバランスの取れた人材育成を目指す	(3) ア. ①学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる ②学校は、生徒の間違った行動を改めるように指導している ③学校の生徒指導方針に基づいた指導が行われている[教職員] イ. ①転・退学者数が在籍生徒の1.0%以内 ②先生は、自分たちのことを理解し、困ったとき、相談をしたり、手助けしたりしてくれる。 ③保健室での処置や相談の対応は親切である 保健室を中心に、体調不良・ケガ等への対応はスムーズに行っている[教職員] ウ. ①学校の部活動は活発である ②部活動の加入率80%以上	(3) ア. ①肯定的評価 ・中 学 78.9%(昨年度 85.5%) ・高 校 85.1%(高3 89.6% 昨年度 89.2%) 【◎】 ・中学保護者 85.5.%(昨年度 82.5%) ・高校保護者 84.7%(昨年度 87.0%) 【◎】 ②肯定的評価 ・中 学 90.5%(昨年度 94.5%) ・高 校 89.1%(高3 92.5% 昨年度 92.0%) 【◎】 ・中学保護者 89.2%(昨年度 88.5%) ・高校保護者 85.7%(昨年度 88.4%) 【◎】 ③肯定的評価 ・教職員 72.0%(昨年度 72.4%) 【○】 ※ 落ち着いた学校として保護者からも認識されており、教員の生徒に対する指導方針も承認されていると感じられる。生徒の方もその変化に対して大きく逸脱することもなく、指導にも馴染んできていると思われる。 イ. ①R5年度 転・退学者(R6. 2. 1現在) 中学校 4名(1.5%) 高校 12名(1.2%) 〈昨年度同時期 中学4名(1.7%)、高校15名(1.6%)〉 【○】 ②肯定的評価 ・中 学 85.3%(昨年度 77.7%) ・高 校 82.6%(高3 90.0% 昨年度 78.3%) 【◎】 ・中学保護者 80.6%(昨年度 84.3%) ・高校保護者 82.5%(昨年度 76.5%) 【◎】 ③肯定的評価 ・中 学 87.9%(昨年度 92.7%) ・高 校 85.9%(高3 88.4% 昨年度 92.0%) 【◎】 ・教職員 100.0%(昨年度 98.3%) 【◎】 ウ. ①肯定的な評価 ・中 学 90.9%(昨年度 89.5%) ・高 校 84.9%(高3 82.2% 昨年度 80.0%) 【◎】 ・中学保護者 81.5%(昨年度 76.0%) ・高校保護者 79.8%(昨年度 74.0%) 【◎】 ・教職員 75.6%(昨年度 84.5%) 【○】 ②部活動(高校)の加入率 818名/980名(83.5%) 【◎】 ※ 学校生活全般では、生徒も保護者も満足度が高い。部活動の加入率も非常に高く、学習活動だけでなく、部活動への参加も期待して学校選びが行われているのがわかる。いじめや生徒指導上の問題もほぼなく、生徒や保護者の満足度も高いが、通学時や自転車マナー、SNSの使用上のマナーなど今後も継続して指導が必要である。

<p>(4)</p> <p>「グローバル人材の育成」</p>	<p>(4)</p> <p>ア. 国際交流や異文化交流の取り組みの実施</p> <p>イ. イングリッシュセミナーやグローバルヴィレッジ、英語スピーチコンテストなど英語によるコミュニケーション能力の育成の充実</p>	<p>(4)</p> <p>ア. 学校は国際交流や異文化交流の活動に積極的に取り組んでいる</p> <p>イ. ①英語検定2級以上 ②GTEC690点以上の取得80%以上</p>	<p>(4)</p> <p>ア. 肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中 学 93.5%(昨年度 81.8%) ・高 校 91.8%(高3 88.4% 昨年度 68.9%) ・中学保護者 94.9%(昨年度 77.4%) ・高校保護者 91.8%(昨年度 70.4%) ・教職員 84.1%(昨年度 82.8%) <p>【◎】</p> <p>【◎】</p> <p>【◎】</p> <p>【海外修学旅行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校 ドイツ・アメリカ・オーストラリア <p>【海外留学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校 ニュージーランド・オーストラリア交換留学 <p>【海外研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校 UCLA研修・ケンブリッジ研修・ベトナム医療ボランティア研修 ・中学 オーストラリア研修 <p>【留学受入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリア提携校(IGS 高校5名、中学10名)、(SOC 14名) AFS(2名 アルゼンチン・ポーランド) <p>イ. ①英検の結果(R5新規格者 R6.03.15現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1級 中学 0名 高校 1名 計 1名 (昨年度 0名) 準1級 中学 0名 高校 13名 計 13名 (昨年度 5名) 2級 中学 4名 高校 182名 計 186名 (昨年度 174名) 準2級 中学 25名 高校 119名 計 144名 (昨年度 172名) 3級 中学 57名 高校 50名 計 107名 (昨年度 92名) <p>②GTECの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 高3 受験者平均 893.2点 (昨年度 917.2点) 690点以上(A2以上) 98.8%(243名/246名) (昨年度 98.5%) B1以上の高得点者 87名(35.4%)(昨年度 35.4%) <p>※ 海外研修がようやく解禁となり、本校でも提携校を中心に、研修や受入を積極的に実施してきた。長らく参加できなかったこともあり、保護者や生徒の希望も思った以上に多かった。今後も、さまざまな研修や留学プログラムを用意し、多くの参加希望者を募ってきたい。</p>
<p>(5)</p> <p>人材開発</p>	<p>(5)</p> <p>ア. 新規採用教員及び若手教員の育成 導入研修の実施やメンター制度の導入、授業研究などを通し、指導助言、育成を図る</p> <p>イ. 中堅・ベテラン教員の教員力の向上とリーダーシップの育成 各階層に応じた教員としての能力向上のため、研修制度の充実と自己啓発への意欲を高める</p>	<p>(5)</p> <p>ア. ①初任者等経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある[教職員] ②教員間で授業内容を評価・意見交換などを行う機会がある[教職員]</p> <p>イ. ①効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している[教職員] ②教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている[教職員] ③研修、研究に参加した成果を、他教員に伝えて情報を共有する体制がある[教職員]</p>	<p>(5)</p> <p>ア. ①肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員 51.2%(昨年度 42.4%) <p>【△】</p> <p>②肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員 76.8%(昨年度 71.2%) <p>【○】</p> <p>※ 校長による授業見学及び面談を年2～3回実施した。指導教諭による授業見学やサポートなどは随時実施 若手教員同士のピアサポート体制の取り組みも定着してきており、少しずつであるが、改善傾向が見られている。</p> <p>イ. ①肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員 58.5%(昨年度 67.8%) <p>【△】</p> <p>②肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員 37.8%(昨年度 40.7%) <p>【×】</p> <p>③肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員 68.3%(昨年度 59.3%) <p>【○】</p> <p>※ 年2回の授業見学期間を設定 教職員の校内研修として、6月と10月に教員相互授業見学期間を設け、教科内での研究協議と教科の枠を超えた授業見学と研究協議を行った。特に10月は対象クラス以外、午後の授業をカットして研究授業を行い、その後、昨年度に引き続き千々布敏弥先生に指導講評をお願いした。</p> <p>※教職員人権研修の実施 7月に「発達障がいのある生徒の理解と支援の在り方」をテーマに梅花女子大学の伊丹昌一教授による講演会を実施。様々な指導文の課題のある生徒に対する接し方について、事例も交え非常にわかりやすい講演で、事後アンケートの結果も非常に良かった。</p> <p>適宜、教職員の要望に応える校内研修を企画、実施している。</p>
<p>(6)</p> <p>組織改革</p>	<p>(6)</p> <p>ア. 学校の教育理念の理解と教員間の連携</p>	<p>(6)</p> <p>ア. ①教職員は「建学の精神」や「教育方針」を理解し、指導に取り組んでいる[教職員] ②教員間・教科間の相互理解がなされ信頼関係に基づいて教育活動が行</p>	<p>(6)</p> <p>ア. ① 肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員 86.6%(昨年度 79.7%) <p>【◎】</p> <p>② 肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員 69.5%(昨年度 81.4%) <p>【○】</p>

<p>イ. 各種会議の時間短縮や業務の効率化 運営委員会、職員会議などで校内諸会議のペーパーレス化を進め、1時間以内を目標に効率的に会議を実施 生徒指導の時間を確保するとともに「働き方改革」を幅広く実施していく ウ. 保護者への連絡、PTA活動の活性化など、学校と家庭の連携強化を図る</p>	<p>われている[教職員] イ. 教職員会議をはじめ、各種会議が有効かつ効率よく機能している[教職員] ウ. ①「先生は保護者の相談に適切に対応し、意思疎通をきめ細かく行っている[保護者] 家庭との連携ができています[教職員] ②「PTA活動は活発である」[保護者] ③ 本校のWEBページの内容は充実している 学校はホームページを利用して積極的に情報を公開している[教職員]</p>	<p>イ. 肯定的評価 ・教職員 61.0%(昨年度 66.1%) 【○】 ※「働き方改革」の実施からも各会議などの効率化は必至で「Garoon」や「BLEND」などを使い、効率化を図っている。 ウ. ① 肯定的評価 ・中学保護者 77.2%(昨年度 81.6%) ・高校保護者 76.1%(昨年度 75.5%) 【○】 ・教職員 90.2%(昨年度 93.1%) 【◎】 ② 肯定的評価 ・中学保護者 91.6%(昨年度 87.6%) ・高校保護者 87.8%(昨年度 86.3%) 【◎】 ③ 肯定的評価 ・中 学 90.1%(昨年度 91.4%) ・高 校 78.8%(高3 75.5% 昨年度 73.2%) 【◎】 ・中学保護者 90.3%(昨年度 86.6%) ・高校保護者 83.5%(昨年度 78.3%) 【◎】 ・教職員 97.6%(昨年度 98.3%) 【◎】 ※ PTA活動もほぼコロナ以前に改善し、数値も高い状態で推移した。 学校での行事にも多くの保護者の参加が見られるようになった。 「BLEND」を通じて保護者への連絡も積極的に行われている。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【自己評価アンケートの結果と分析】

自己評価アンケートの結果と分析〔令和6年2月実施〕

【結果】

- 資料① 令和5年度 学校評価（生徒）アンケート集計表
- 資料② 令和5年度 学校評価（保護者）アンケート集計表
- 資料③ 令和5年度 学校評価（教職員）アンケート集計表

【分析】

1. 実施状況

対 象		対象者数	回収数	回収率	調査期間	備 考
生徒	高校3年	259	241	93.1%	令和6年2月20日	資料①
保護者	全学年	1234	970	78.6%	令和6年1月27日～2月4日	資料②
教職員	常勤	87	82	94.3%	令和6年1月24日～2月2日	資料③

2. 対象別アンケート結果

○ 生徒（高校3年生）3

今年度は質問内容を一部変更したので質問数は3問減少した。アンケートの項目（全29項目）を肯定的評価（A+B）の割合で集計したのが表1である。肯定的評価が80%以上の評価の高い項目は18項目で全体の62.1%、肯定的評価が60%未満の評価の低い項目は2項目であった。

表1 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100～90	～80	～70	～60	～50	～40	～30	～0	項目総数
R5年度	7	11	5	4	1	0	1	0	29
R4年度	16	10	5	1	0	0	0	0	32
R3年度	12	7	7	4	2	0	0	0	32
R2年度	6	11	9	5	0	1	0	0	32

ア. 評価A+Bが80%以上の「評価の高い」項目

・学校は、災害が起こった場合の訓練を行っている。	92.9%	1.1%
・学校は、資格、検定の取得に取り組んでいる。	92.9%	-3.2%
・先生は、生徒の間違った行動を改めるように指導している。	92.5%	-0.5%
・学校は、緊急時の対応を生徒に周知している。	90.9%	-2.6%
・学校は、わからなかったときの補習、質問対応に熱心である。	90.0%	-5.3%
・先生は、自分たちのことを熱心に指導している。	90.0%	-4.9%
・先生は、自分たちのことを理解し、困ったとき、相談をしたり手助けをしたりしてくれる。	90.0%	2.4%
・先生は、いじめや暴力のないクラスづくりに取り組んでいる。	89.6%	-5.4%
・学校は、国際交流や異文化交流等の活動に積極的に取り組んでいる。	88.4%	10.8%
・保健室での処置や相談の対応は、親切である。	88.4%	-8.5%
・文化祭・体育祭、宿泊行事などの学校行事に、積極的に参加している。	88.3%	-3.6%
・大学の進路指導に関して適切なアドバイスがある。	88.0%	-3.9%
・先生は、生徒の人権を尊重する姿勢で指導にあたっている。	86.7%	-4.8%
・学校の文化行事（ココロの学校等）は、充実している。	85.0%	5.1%
・事務室での手続きや相談の対応は、丁寧である。	84.2%	-5.7%
・学校の授業は、総じて分かりやすい。	83.4%	-5.0%
・大阪国際高校に入学してよかったと思っている。	83.0%	-2.3%
・学校の部活動は活発である。	82.2%	-5.9%

イ. 評価A+Bが60%未満の「評価の低い」項目

・学校ではICT機器を用いた授業が積極的に行われ、内容に満足している。	39.6%	--
・学校の「建学の精神」や「教育方針」を理解している。	59.2%	-10.3%

○ 保護者（高等学校）

今年度は質問内容を一部変更したので質問数は3問減少した。アンケートの項目（全32項目）を肯定的評価（A+B）の割合で集計したのが表2-1である。肯定的評価が80%以上の「評価の高い」項目は18項目で全体の56.3%、肯定的評価が60%未満の「評価の低い」項目は0件であった。

表2-1 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100～90	～80	～70	～60	～50	～40	～30	～0	項目総数
R5年度	2	16	10	4	0	0	0	0	32
R4年度	1	16	13	4	0	0	1	0	35
R3年度	3	13	10	3	4	1	1	0	35
R2年度	6	11	12	2	2	2	0	0	35

ア. 評価A+Bが80%以上の「特に評価の高い」項目

・お子さまは、文化祭・体育祭、宿泊行事などの学校行事に、積極的に参加している。	91.9%	1.7%
・学校は、国際交流や異文化交流等に積極的に取り組んでいる。	91.8%	21.4%
・学校の文化行事（ココロの学校等）は、充実している。	89.8%	9.2%
・事務職員の保護者への対応は丁寧である。	89.0%	0.7%
・学校は、資格、検定の取得に取り組んでいる。	88.0%	-1.0%
・学校の施設・設備は、学習環境の面で満足できる。	88.0%	-1.4%
・学校でのPTA活動は活発である。	87.8%	1.5%
・学校は、お子さまの間違った行動を改めるように指導している。	85.7%	-2.8%
・学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	84.7%	-2.2%
・お子さまを、大阪国際高校に入学させてよかったと思う。	84.3%	0.9%
・学校は、教師が生徒の人権を尊重する姿勢で指導にあっている。	83.9%	1.7%
・本校のWebページなどで学校の教育内容をよく知ることができる。	83.5%	5.2%
・先生は、お子さまのことを理解し、相談等に応じてくれている。	82.5%	6.1%
・学校は、講習を行ったり、生徒の質問対応等に熱心に取り組んでいる。	82.5%	--
・先生は、お子さまを熱心に指導している。	82.4%	1.4%
・学校では、「特色ある教育活動」が行われている。	81.3%	--
・ご家庭でお子さまは、自分の学級が楽しいと言っている。	81.1%	-0.9%
・学校は、ICT機器を利用した授業に積極的に取り組んでいる。	80.7%	0.5%

イ. 評価A+Bが60%未満の「評価の低い」項目

なし

○ 保護者（中学校）

今年度は質問内容を一部変更したので質問数は3問減少した。アンケートの項目（全32項目）を肯定的評価（A+B）の割合で集計したのが表2-2である。肯定的評価が80%以上の「評価の高い」項目は24項目で全体の75.0%、肯定的評価が60%未満の「評価の低い」項目は2項目であった。

表2-2 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100~90	~80	~70	~60	~50	~40	~30	~0	項目総数
R5年度	8	16	5	1	2	0	0	0	32
R4年度	5	22	5	2	0	1	0	0	35
R3年度	6	17	8	1	2	1	0	0	35
R2年度	5	17	9	3	1	0	0	0	35

ア. 評価A+Bが80%以上の「特に評価の高い」項目

・学校は、資格、検定の取得に取り組んでいる。	96.8%	-0.5%
・学校の文化行事（ココロの学校等）は、充実している。	95.8%	5.9%
・学校は、国際交流や異文化交流等に積極的に取り組んでいる。	94.9%	17.5%
・お子さまは、文化祭・体育祭、宿泊行事などの学校行事に、積極的に参加している。	94.5%	-0.5%
・学校は、ICT機器を利用した授業に積極的に取り組んでいる。	92.1%	-1.0%
・学校でのPTA活動は活発である。	91.6%	4.0%
・本校のWebページなどで学校の教育内容をよく知ることができる。	90.3%	3.6%
・お子さまを、大阪国際中学に入学させてよかったと思う。	90.1%	3.5%
・学校の施設・設備は、学習環境の面で満足できる。	89.8%	-1.5%
・学校では、「特色ある教育活動」が行われている。	89.4%	--
・学校は、お子さまの間違った行動を改めるように指導している。	89.2%	0.7%
・事務職員の保護者への対応は丁寧である。	88.8%	1.7%
・先生は、お子さまを熱心に指導している。	87.0%	-0.5%
・校長は、積極的に学校改革に取り組んでいる。	85.8%	7.5%
・学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	85.5%	3.0%
・学校の生徒会活動は活発に行われている。	84.7%	3.1%
・学校は、講習を行ったり、生徒の質問対応等に熱心に取り組んでいる。	84.3%	--
・学校は、緊急時の対応を生徒に周知している。	82.5%	2.4%
・学校は、教師が生徒の人権を尊重する姿勢で指導にあっている。	82.3%	-0.2%
・学校の部活動は活発に行われている。	81.5%	5.4%
・学校は、災害が起こった場合の訓練を行っている。	81.3%	-1.2%
・ご家庭でお子さまは、自分の学級が楽しいと言っている。	81.1%	-3.7%
・先生は、お子さまのことを理解し、相談等に応じてくれている。	80.6%	-3.8%
・学校は、保護者がお子さまの学校生活を参観する機会をよく設けている。	80.5%	37.6%

イ. 評価A+Bが60%未満の「評価の低い」項目

・大学の進路指導に関して適切なアドバイスがある。	55.2%	-7.4%
・お子さまの学力は向上している。	56.7%	--

○ 教員（常勤）

今年度は質問内容を一部変更したので質問数は5問減少した。アンケートの項目（全45項目）を肯定的評価（A+B）の割合で集計したのが表3である。肯定的評価が80%以上の「評価の高い」項目は18項目で全体の40.0%、肯定的評価が60%未満の「評価の低い」項目は11項目で全体の24.4%であった。

表3 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100～90	～80	～70	～60	～50	～40	～30	～20	～10	項目総数
R5年度	10	8	10	6	8	1	2	0	0	45
R4年度	9	11	11	6	6	4	3	0	0	50
R3年度	10	11	9	6	3	3	4	4	0	50
R2年度	17	6	10	6	1	3	4	3	0	50

ア. 評価A+Bが80%以上の「特に評価の高い」項目

・保健室を中心に、体調不良・ケガ等への対応はスムーズに行えている。	100.0%	1.7%
・海外研修など積極的に国際交流が行われている。	98.8%	--
・学校はホームページを利用して、積極的に情報を公開をしている。	97.6%	-0.7%
・カウンセリング制度など、生徒支援の体制が整えられている。	97.6%	-2.4%
・学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	92.7%	-0.5%
・授業などにおいて積極的にICT機器を活用している。	92.7%	1.2%
・生徒に応じたきめ細かな教育を実施している。	92.6%	1.1%
・教職員は、「目指す生徒像」を理解して、指導に取り組んでいる。	91.5%	--
・各教科は、生徒の学力を着実に伸ばしている。	91.4%	10.3%
・生徒指導において、家庭との連携ができています。	90.2%	-2.9%
・疾病予防、健康維持、衛生管理の指導・啓発が行われている。	89.0%	2.6%
・教職員は「建学の精神」や「教育方針」を理解して、指導に取り組んでいる。	86.6%	6.9%
・進路の実現に向けて計画的な学習指導がなされている。	86.6%	0.1%
・他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。	84.1%	1.4%
・保護者などへ授業を公開している。	82.9%	40.6%
・生徒の情報活用能力の育成を図っている。	82.9%	-3.5%
・生徒アンケートを踏まえて、分かる授業の実践に向けての取り組みが行われている。	82.7%	1.4%
・生徒一人ひとりの興味・関心・適性に合わせた進路選択ができるような支援体制がある。	81.7%	-7.9%

イ. 評価A+Bが60%未満の「評価の低い」項目

・教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。	37.8%	-2.9%
・地域や地域住民との交流ができています。	38.3%	1.0%
・人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある。	49.4%	-13.3%
・初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。	51.2%	8.8%
・生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。	53.7%	-0.6%
・事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。	55.6%	1.3%
・危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている。	56.1%	-4.2%
・生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	58.5%	1.6%
・効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している。	58.5%	-9.3%
・ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。	58.5%	6.0%
・人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。	59.3%	-11.9%

4. 校長からの今年度の取り組みに対する見解

1. 「質の高い学びとバランスの取れた人間形成」の実践

- ・今回の学校評価アンケートは、新校開校後、2度目のアンケート実施となる。旧大和田時代を知る（中3/高3）と、新校になってからの入学生が混在する最後のアンケートともなる。「学校の教育方針を理解している」「学校の目指す生徒像を理解している」は学年が下がるにつれ肯定的評価が高まっており、本校の目指す方向性が着実に浸透してきている。
- ・「学校では特色のある教育活動が行われている」も同様の傾向であり、本校の教育の特色の実践面で、さらにその内容充実を図っていききたい。
- ・他方、「学校は学習だけではなく、将来の自分の生き方を考えさせ、豊かな心を育てようとしている」は、学年が上がるごとに肯定的評価が高まる結果となっており、生徒たちが進路に向き合う中で、その多様な志望に対応する進路指導体制と、志を育む本校の特徴的な取り組みが評価された結果となっている。
- ・「学校の授業は総じて分かりやすい」「学校は分からなかった時の補習、質問指導に熱心である」などの授業・学力向上への取り組みに関する質問は、生徒・保護者とも肯定的評価が約80%と高評価。しかしながら、「学校の授業で着実に学力が向上している」は、肯定的評価が生徒約70%、保護者は約60%にとどまり、結果が想定や期待している水準に達していないとの思いが見て取れる。一方、教員は「生徒の学力を着実に伸ばしている」で90%超の高い自己評価をしており、生徒・保護者との乖離が大きい。生徒自らの努力を促すことはもちろんであるが、この現実も見て、学習指導にあたっていかねばならない。
- ・「ICT機器を用いた授業が積極的に行われ、内容に満足している」は、Chromebookを所有ないしは全員が貸与を受けている高2以下では評価が非常に高い。最新の設備環境を活かし、よりその内容充実を図っていききたい。
- ・「学校行事に積極的に参加している」は、中学・高校とも全学年が肯定的評価が90%水準となった。学校行事がコロナ前のフルスペックで行えていること、新校の特徴的な取り組みが活性化してきていることが反映された結果となっている。
- ・総合評価としての「大阪国際中学校高等学校に入学してよかった」は、中学が生徒86%/保護者90%、高校が生徒75%/保護者84%が肯定的評価。
- ・学校改革の面では、保護者の「校長は積極的に学校改革に取り組んでいる」で80%近くの肯定的評価を得ている一方、生徒の「学校がよりよく変わっているように感じる」では、高校生が約半数の肯定的評価にとどまる。期待値が大きい表れととらえ、一層の満足度を高めるべく取り組んでいきたい。

2. 進路指導

- ・進路指導に対しては、生徒・教員とも肯定的評価が約80%となっており、高評価。
- ・高3生の進学実績も、例年を超える水準が期待できる状況で推移している。
- ・大学・短大との連携体制についての教員評価は、肯定的評価が68%と昨年の44%から大きく向上。高校Ⅱ類の教育課程や進路指導上での取り組みが反映されてきている形となっている。

3. 生徒指導

- ・生徒指導に関する質問項目に対する評価は、生徒・保護者・教員とも、昨年比大きな変化は無い。指導方針への全体的な承認を得て、落ち着いた学校運営がなされているとの評価と感じられる。
- ・特別な配慮が必要な生徒や不登校の生徒が増える傾向がある中で、「先生は自分たちのことを理解し、困ったとき相談をしたり手助けをしたりしてくれる」や「保健室での処置や相談は適切である」は生徒から80%超の肯定的評価を得ている。保護者も同様。また、教員の「カウンセリング制度など、生徒支援の体制が整えられている」に対する肯定的評価は98%となっており、充実・整備を図っている生徒相談体制についての校内評価も高い。
- ・女子バレーボール部・男子硬式テニス部・女子ラクロス部・吹奏楽部のシンボリッククラブに加え、運動部・文化部とも多様なクラブが活動を実施。クラブ活動については、中学・高校とも80~90%が肯定的評価であり、クラブ加入率も高い。

4. グローバル人材の育成

- ・国際交流や異文化理解に関する取組みも、コロナ禍の影響は一掃され、予定されていたものをすべて実施できる状態となった。高校の海外修学旅行・海外留学、中学・高校の海外研修と多様なプログラムを展開することができた。
- ・また、オーストラリアの提携校やAFSの交換留学生を計31名受け入れ、校内での国際交流の機会を多く設けることができた。
- ・中学生対象のイングリッシュキャンプやグローバルビレッジ、中高の英語によるスピーチコンテストは本年も継続的に実施。また、中学では、オンライン英会話の授業を通年で実施した。
- ・中学で英語力向上のためのプログラムを展開。ネイティブ教員との英会話の機会を常設化するEnglish Commonsや、英検2級以上の英語力をすでに保有する生徒向けのブラッシュアッププログラムの展開などを実施、高評価を得ている。
- ・上記のような取り組みの結果、国際交流に関する肯定的評価は生徒・保護者・教員とも90%超と非常に高い。
- ・英語の資格試験に対する取り組みや実績も顕著なものとなっている。

5. 人材開発

- ・新校開校と同時に、体系だった人材開発プログラムの構築に着手。まずは、年度初めの新任教員向け研修や、中堅教員と新任教員のペアリングによるメンター制度を導入。
- ・10月に、国立教育政策研究所の千々布敏弥先生をお招きし、「教師はどうリフレクションしたらいいか」というテーマで講演会を行っていただいた。また、先生は授業改善に向けた様々なご指導をされていることから、先生を交えた教員の相互授業見学会も合わせて実施。先生よりのフィードバックに加え、その授業内容を題材とした勉強会も実施し、教員にとっては非常に貴重な学びの機会となった。
- ・校長やスーパーバイザーによる授業見学、フィードバック指導も定期的な実施。
- ・教員相互の授業研究に対する質問項目「教員間で授業内容を評価・意見交換などを行う機会がある」「公開授業・授業アンケート等が定期的な実施、授業改善への取り組みが行われている」「研修・研究に参加した成果を他教員に伝えて情報を共有する体制がある」については、昨年比改善して、70%水準の肯定的評価となっている。
- ・しかし、研修についてはまだまだ改善点も多く、研修全般に対する教員の評価は絶対値としては未だ低水準。次年度もよりその内容充実を図っていききたい。

6. 組織改革

- ・教育方針や目指す生徒像に対する教員理解は着実に進んでいる結果となった。
- ・教職員が「生徒に振り向ける時間を極大化」すべく、働き方改革の取り組みを継続的に実施。
- ・PTA活動では、「PTA活動は活発である」への保護者評価は、90%近くが肯定的評価と非常に高評価。一方、「PTA活動には参加しやすい」は肯定的評価が60%台にとどまっており、PTA役員のみなさんと協働して、活動を活性化していく工夫を行っていききたい。

○ 学校関係者評価委員からの今年度の取り組みに対する見解

1. 「質の高い学びとバランスの取れた人間育成」の実践

・「授業がわかる」

→学校にとってとても重要な項目である。「授業がわかる」が向上すれば、生徒の学力向上感は上がっていく。この項目については、80%を超えたから「◎」ではなく、100%に近づけていくという思いで取り組みをお願いしたい。

この項目を経年変化で見ると（R3→R4→R5）

中 学： 85.9⇒92.7⇒89.7

高 校： 92.2⇒76.7⇒76.2（高3：88.4⇒83.4）

となっている。結果に一喜一憂することはないが、この変化をどうとらえるかという分析が重要である。

・学校の授業で着実に学力が向上している

→高3では8割程度と高い水準であるものの、学校平均では68.8%であるため高1、高2で6割程度の数字となっているのではないかと。約4割が学力の向上を実感できていないのはどのようなことに起因しているのか、校長の所感にもあるが、教師に対するアンケートでは伸びているので乖離が発生している原因を追究していく必要がある。

・学校ではICT機器を用いた授業が積極的に行われ、内容に満足している

→生徒が使う端末だけでなく、学校で準備する機器や設備についても時代に合わせ継続的に改善をしていく必要がある。

・学校がよりよく変わっているように感じる、

学習だけでなく、将来の自分の生き方を考えさせ、豊かな心を育てようとしている
→変化の激しい時代となり、多感な時期でもある高校時代では子どものスピード感に合わせた変化が重要になる。生徒にとってより良い学校とはどういうものかを学校全体で追究していただきたい。また大部分の生徒が成績を良くすること、良い大学に入ることは目的ではなく手段であると理解しているように読み取れるものの、2割程度の生徒はそのような方針ではないと感じていることにも留意する必要がある。

・「ICT機器を用いた授業」に関して、中学校84.5%で昨年度より4ポイント減になっていることについて

→本校では、昨年度は学年によって数値の差があったものの、今年度は研修等に力を入れ生徒の肯定的評価は98.1%にまで伸びた。大きく授業改善がすすんだ一方、課題の学力向上には結果が見えない状況であるが、粘り強く実践していくしかない。

2. 進路指導

・(2)イが「◎」であることの根拠がわからない。

もちろん、多様な進路選択が保障されるべきであり、国公立大学に進学することだけが望ましい進路であるとは思わないが、この結果をどうとらえるかという共通認識が教員間に必要である。

3. 生徒指導

・今回の結果で最も気になったのが「生徒指導」である。

(3)ア「学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」の項目の経年変化を見ると

中 学： 86.9⇒85.5⇒78.9（R3→R4→R5）

高 校： 92.6⇒89.2⇒85.1（R3→R4→R5）

となっている。そして自己評価はすべて「◎」である。この認識は学校危機管理上、とても心配である。いじめアンケートや気になる生徒への声かけなどはされていると思うが、全教職員で今一度この結果を共有することが必要である。

・評価指標：転退学者数が在籍生徒数の1.0%以内

→転退学は本人だけでなく周囲にも影響を与えてしまう。生徒数が新校になってから増えているので、より高い水準に設定しても良いのではないかと。

・生徒指導提要の改訂を受け、中学校では令和5年度から、上からの指導ではなく生徒に寄り添った支援を意識した対応に努めようと『生徒指導部』を『生徒支援部』に名称変更した

また、不登校対策として、校内適応指導教室（教育支援センター）を設け、名称を『別室』から『STEPルーム』に変更し、限られた教員の中、個別の対応を行っている。国際中学校の転学者が昨年度に続き4名であることが気になり、少し本校の状況を書きました。

・「いじめや暴力のない学校づくり」に関して、中学校78.9%で昨年度より6ポイント余り減となっていることについて

→本校とは学校状況が違うのですが、教師の動きを生徒がどう見ているのか。

ア②「生徒の間違った行動を改めるよう指導しているか」やイ③「保健室の対応は親切か」の数値も減少しており、少し気になる。生徒支援の目線を生徒にわかりやすく伝える必要があるのではないか。

4. グローバル人材の育成

- ・海外の文化に触れることは、中高生の時期の生徒にとって重要なことである。活発な国際交流活動は「大阪国際中学高校」だからこそそのすばらしい取り組みである。引き続きお願いしたい。
- ・コロナに対する世間の反応も和らいだことで、大阪国際高校としての持ち味を出せるようになったと感じる。特にグローバル人材の育成については昨年度以上に各項目での改善が見受けられ、社会的にもグローバル人材を求める傾向が強くなってきていることから今後も大事にしていきたい。
- ・「国際交流や異文化交流の活動に積極的に取り組んでいる」の肯定的評価が昨年度より大きくアップし93.5%になったことについて
→大変うらやましい限りである。本校では、かつて旧第二中学校に『民族学級』があり、昨年度より『多文化学級』に名称を変更して、総合的学習の時間を年間10時間確保し、国際理解学習と並行して学んでいる。以前は韓国・朝鮮にルーツのある生徒が中心であったが、今年度はアジアからモロッコやペルー、カナダなど多岐に及んでいる。ぜひとも、御校と交流の機会を持ちたいと思う。

5. 人材開発

- ・千々布先生、伊丹先生をお招きしての教員研修を行われたことは、とてもいい取り組みである。今後も教職員のニーズと社会情勢を踏まえて研修会の企画をお願いしたい。

6. 組織改革

- ・活発なPTA活動は、学校にとって宝物である。来年度に向け、地域のみなさまとの連携協力をさらに進めていただきたい。
- ・教職員会議をはじめ、各種会議が有効かつ効率的に機能している
→会社でもありがちな「会議」という名の報告会が開催されていて、多くの教員がそれに時間を割かれていないかが気になる。作成した資料を読み上げたり、決まったことを報告して意見を聞く程度のものであれば、書面の共有や録画データを教員の都合の良い時間に確認させることで主催側も参加側も負担を軽減できると考える。
- ・人材開発の数値は、改善傾向の設問もあるが、本校も同様厳しい。公教育の危機を感じることもある。新規や若手教員の育成とともに今後の管理職候補のスキルアップのためにも公立・私立の違いはあるが、本校にとって御校は、校区内の私立中学校・高等学校であり今後、生徒だけでなく教職員間の交流ができればと考えている。今後、学校関係者評価委員会を書面開催ではなく、会合を持っていただき、参観等させていたければ、意見交流の場を設けていただけないか。

7. その他

- ・「自己評価」の尺度が変更になっている。
→昨年度は基準値が示されるだけであったので、自己評価の際は一つ一つの項目を判断することができた。今年度の評価尺度では、一律に80%を超えると◎となり、昨年度よりも数値が下がっていても、◎となっている。
項目によっては、100%をめざすことが大切なものもあり、「◎（目標以上）」とするのではなく、一つ一つの項目をしっかりと分析することが重要である。
- ・「具体的な取り組み計画・内容」は、「今年度の重点目標」を踏まえ、今年度具体的に何をするかということに記載する項目であるが、具体的な取り組みが書かれていない。
昨年度アンケート分析から自校の課題をとらえ、その改善に向けて今年度はこんなことをしていこうという具体的な取り組みがあって、取り組んだ結果、アンケートでこのような評価が出た。改善されていたなら継続を考え、改善されなかったなら原因を分析し新たな取り組みを考えることが必要である。
- ・高校の生徒数967名に対してアンケート回答は約8割にとどまっている。学校をよりよくするという趣旨を校長先生や担任の先生を通して生徒に伝え、より精度の高いデータを収集して分析する必要がある。